

令和 2 年度
興南高等学校
入学試験問題

中期

国語

令和 2 年 2 月 8 日 (土) 実施 50 分 / 100 点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は 50 分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、中学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。

【 一 】 次の文章を読んで後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。

幸いにして日本は雨が多いけれど、「農業と水」は昔から人間の深刻な問題であった。

かつて旧ソ連はその南部、中央アジアの半砂漠でワタ（綿）^aをサイバイしようと考えた。なんとかして綿をサイバイして、国内で木綿を生産したかったのである。しかし、夏の気温の高いこの適地には水がなかった。

だがこの広大なカンソウ地^bの中をアム・ダリヤ、シル・ダリヤという二つの大きな河が流れている。この河から水をひけばよい。ソ連にはその工事のための技術はもちろん十分に備わっていた。

そこでこの計画が実行に移された。水は二つの河から引き、それで砂漠を灌漑^{かんがい}した。植えられたワタはぐんぐん育て、大量の実をつけた。期待どおり木綿の生産が始まったのである。

けれどそれとともに、この二つの大河が流れ込む大きな湖、アラル海は次第に小さくなっていった。

それも当然である。^①アラル海はアム、シル二つの河の水だけで養われている湖なのである。その河の水が途中で砂漠のワタ畑の灌漑に使い果たされてしまえば、世界第四の大きさを誇っていたアラル海も、小さくなっていかざるを得なかった。

アラル海にはアム、シル以外には流れ込む河がない。そしてアラル海から流れ出る河もない。アム、シル両河川から流れ込む水と、湖から蒸発する水とがバランスをとることによって、面積約六万六〇〇〇平方キロ、琵琶湖の約一〇〇〇倍という大湖、アラル海がずっと保たれてきたのであった。

流入する水が大量に I ので、アラル海は予想通りどんどん小さくなっていった。湖の沿岸線は日に日にセバ^cまって、急

速に塩度がⅡいった。その結果、昔からいた魚たちもやがてⅢした。

漁業も水運業も消滅し、それを生業^dとしていた大量の人々は転職や移住を余儀^よなくされた。

そればかりではない。かつて書いたとおり、(新潮文庫「人間はどこまで動物か」所収) 壮大な期待をかけて作り出したワタの畑では、砂漠を灌漑したときにほとんど必ずおこる土の塩性化という現象が進んで、もはや畑としては使えなくなった。つまり、さらに大量の水で塩分を洗い流さねば何も育たぬ土地になってしまったのである。こうして②広大な湖も土地も失われることになった。

しかしこうした事態はこのアラル海に限ったことではない。われわれ地球研で仲尾正義教授が中心となって進めてきた通称^{※3}「オアシスプロジェクト」の研究によって、中国西部の黒河流域^{こくが}でも同じような現象が明らかにされている。

※4 祁連山脈^{ちれん}の氷河を唯一の水源とする黒河の水は、カンソウした流域をうるおしながら北へ流れていくが、その水で生じたいくつかのオアシスでは、※5 カラホトとその他の都市が古くから豊かな文化と経済を誇っていた。しかし、この二〇〇〇年近くの間にこの流域で何回もおこった農業の拡大、ダムの建設などによって水は次第になくなり、砂漠化が進んで、カラホトは今では廢墟^{はいきよ}になってしまっている。草地でおこなわれていた牧畜も危ぶまれる状態になってきた。

このような水の消失に対処するために、人々は地下水を汲み上げ、それを使って生きてきたが、その地下水も水位がどんどん下がっていった、もはや限界に近いと思われる。

牧畜に伴う過放牧が土地のカンソウ化を進めているというので、牧畜民を町へ移住させる「生態移民」という政策もとられ

始めた。しかし、昔から住みなれてきた土地を離れる人々の悲しみとは裏腹に、その効果には疑問もある。

黒河の水で栄えてきたこの流域は、今後どうなっていくのであろうか？カラホトをはじめとするかつてのオアシス都市の姿が、その行く末を物語っているように見える。

同じような水と農業の問題は、アメリカでもおこっている。アメリカ合衆国西部の八つの州にまたがるカンソウ地では、コロラド河が重要な水源であるが、それだけでは水が足りず、そのあたり一帯の土地の地下に広がっているオガララ帯水層に貯まっている莫大な量の地下水を汲み上げて、広大な農業地域が作りだされた。そしてこの地域でアメリカ農業の六〇パーセントにもあたる生産をあげているという。

トウモロコシ、コムギ、ダイズその他、アメリカから諸外国に輸出される農産物の大半は、ここで作られている。日本や中国が輸入している食料も、ここに由来する。

そのようなわけで、この広大な農地を支えるのに必要な水の量は増えるばかりだ。けれど、それに対応するために比較的近年に開発されたオガララ地下水利用という方策も、もはや未来は暗いことがわかってきた。

すなわち、数千年もかけて蓄えられたと考えられる莫大な量の地下水も、あまりに急速かつ大量な使用によってどんどんその量が減っていく。地下水の水位も下がっていくので、汲みあげるにはますます深くほらなければならなくなった。そして恐ろしいことに、あと二〇年ほどすると、この地下水はなくなってしまうと予測されるに至ったのである。

そうならたらこの広大な農地は消滅せざるを得ない。そのとき日本はどこから食糧を輸入したらよいのだろうか？

農業用に使う水の汲み上げによって地下水の水位が急速に下がっていくことは、インドでもおこっている。その結果、より深くから水を汲み上げねばならなくなり、そのための費用が莫大になりすぎて、農業から離れねばならない人が、どんどん増えていくという。中国の黄河流域でおこっていることも含め、同じタイプの問題が、世界のあちこちで顕在化しつつある。^{※6}

人間は農業を始めたことよって、自然の束縛から脱することができた。そして農業に必要な水を手に入れる技術を、次々と開発することに成功した。だから人間は、もし水がなかったらどこから水をもってくる**ことばかり**考えてきた。

しかし、アラル海の例がすでに示しているとおり、今その限界が明らかになってきた。それはつまり、「X」、ということである。ではどうする？

発想の根本的転換を考えること。それこそが今、われわれに課せられたキンキユウの問題ではないだろうか。

【 日高敏隆 『セミたちと温暖化』 新潮社 ※問題作成の都合上、一部改変 】

【語注】

※1 旧ソ連 現在は崩壊した、ソビエト社会主義共和国連邦、現在のロシア連邦

※2 地球研 総合地球環境学研究所の略称、地球環境問題の解決に向けた学問を創出するための総合的な研究

究を行っている大学共同利用機関

※3 オアシスプロジェクト 中国カンソウ域のオアシス地域における、人と自然の相互作用の歴史を明らかにする地球研の研究プロジェクト

※4 祁連山脈 中国の山脈で、融雪ゆうせつの流水によって北麓ほくろくに多くのオアシスを形成している

※5 カラホト 中国、内モンゴル自治区の西部にある遺跡

※6 顕在化 はつきりと形にあらわれて存在すること

問一 二重傍線部 a～e の漢字の読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直せ。

- a ワタ(綿)をサイバイ
b 広大なカンソウ地
c 日に日にセバまって
d それを生業せいごうとしていた
e キンキュウの問題

問二 傍線部①「アラル海はアム、シル二つの河の水だけで養われている湖なのである」の部分に用いられている表現技法として最も適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えよ。

- ア 倒置法 イ 直喩法 ウ 擬人法 エ 隠喩法 オ 反復法

問三 本文中の I ～ III に入る語句として最も適当なものを次のア～カからそれぞれ選び、記号で答えよ。

- ア 減った イ 増えた ウ 低まって エ 高まって オ 絶滅 カ 増殖

問四 傍線部② 「広大な湖も土地も失われることになった」とあるが、その原因として当てはまらないものを、次のア～オから三つ選び、それぞれ記号で答えよ。(解答の順序は問わない)

- ア 砂漠の灌漑事業 イ 漁業の発展 ウ 土の塩性化 エ 地球温暖化 オ 森林伐採

問五 傍線部③ 「消滅せざるを得ない」について、単語の区切りとして正しいものを【区切り】のa～oから、品詞の識別と正しいものを【品詞】のa～eから選び、それぞれ記号で答えよ。

【区切り】

- ア 消滅せ / ざる / を / 得ない イ 消滅せざる / を / 得ない
ウ 消滅せざる / を / 得 / ない エ 消滅せ / ざるを / 得 / ない
オ 消滅せ / ざる / を / 得 / ない

【品詞】

- ア 動詞・助動詞・助詞・形容詞 イ 動詞・助詞・形容詞 ウ 動詞・助動詞・動詞・形容詞
エ 動詞・助動詞・助詞・動詞・形容詞 オ 動詞・助動詞・助詞・動詞・助動詞

問六 傍線部④「同じタイプの問題」とは具体的にどのような問題か。最も適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア 農業用に地下水の汲み上げを行ったことで、土壌に変化が起こり、農業ができなくなってしまう問題。

イ 牧畜に伴う過放牧で、土地のカンソウ化が進み、砂漠が広がることで、農業ができなくなってしまう問題。

ウ 灌漑事業により農業用の土地が広がり、昔からの居住地がなくなり、その土地に住めなくなる問題。

エ 農業用地下水の汲み上げが年々増加するに伴い、費用面から農業を続けられなくなる問題。

オ 灌漑事業が進み、大規模農業のみが生き残り、小規模農家は農業を続けられなくなる問題。

問七 本文中の「X」に入る内容として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア 水不足はその年の天候に大きく左右されるが対策次第で渇水にならずにすむ

イ 水がない地域で農業をすることは不可能であることを早く認めなければいけない

ウ 水不足を解消するために科学技術の更なる発達をめざしていかなければいけない

エ 水が足りないからどこかから持ってこようという発想ではだめだ

オ 水が足りなくならないような国際的な協議を始めなければならない

【二】次の文章を読んで後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧^{ていねい}に記入せよ。

小学五年生の少年は、同級生のトモノリが怖^{こわ}くて、トモノリに言われるとなんでも聞いてしまう。だから、トモノリの中学一年の兄の同級生であるタカギくんをいじめる「タカギ遊び」にも参加していた。何をされても怒^{いか}らないにぶいタカギくん。勘^{かん}も、体の動きも、心の反応もきつとにぶいだろう。だから、タカギくんは中学一年生のくせに小学五年生におもちゃにされてしまう。ある土曜日の午後、トモノリの提案^{ていあん}で、みんなで「タカギ遊び」をすることになり、学区の外れのため池で釣^{つり}りをしているタカギくんを見つけ、木の陰から石を投げた。少年が投げた石が当たりそうになったタカギくんは、とっさに身をかわしたとたん、ため池に落ちてしまった。「タカギ遊び」の後、少年は駄菓子屋へ誘^{いざな}うトモノリ達に理由をつけて別れ、タカギくんが釣^{つり}りをしているため池の岸边に向かった。

「あのう……」と声をかけた。振り向いたタカギくんは、「なに？」と聞き返した。

怒^{いか}った顔でも声でもない。少年はほっとして、でも同じぐらい、なにをやらせてもにぶいタカギくんのことを悲しくもなつて、「釣^{つり}れますか？」と訊^きいた声はかぼそく揺れた。

タカギくんは池^{いけ}に目を戻して、「全然だめ」と言った。確かに、泥の混^まじった池の水をすくったバケツには、なにも入っていない。かわりに、バケツの縁^{ふち}には濡^ぬれた靴下^{あしほ}がソウキン^aみたいに掛^かかっていた。ジーンズ^{ひざこ}の膝^{ひざ}から下はまだぐつしより濡^ぬれて

いるし、裸足で履いたズック靴も、I、地面を踏みしめると靴底から水が染みてるだろう。

早く家に帰って、コタツに入って体を温めたほうがいいのに。風邪をひいてしまったら——自分のせいだ、と少年はうなだれる。

「釣りたいの？」タカギくんが訊いた。「でも、だめだ、竿一本しかないから」

「……なにが釣れるんですか？」

「ライギョ」

「いるんですか？」

思わず声はずんだ。逆に、タカギくんの方が驚いて、「ライギョ、知ってるの？」と訊いていた。

「お父さんが、よくライギョ釣りに行くから」

お父さんは車で一時間ほど走ったところにあるダム湖にしよつちゅう出かけている。大きいものなら体長一メートルにもなるライギョは、針にかかっても激しく暴れる。それをカクトウするような気分で釣りあげるのが楽しいのだという。

「エサは何を使っているの？お前の父ちゃん」

※² 「ルアーみたい、です」

タカギくんは、ふうん、とうなずいてリールを巻き上げた。※³ テグスの先についているのは小さなカエル——いや、カエ

ルの形をしたゴムのおもちやだった。

「もう冬だから、ほんものカエルいないし」

恥ずかしがる様子もなく笑って、また竿を振ってカエルを池の真ん中に落とす。

ライギョがカエルをエサにすることは少年も知っている。でも、こんなおもちやで釣れるとは思えない。^① やっぱりタカギくんはタカギくんなんだなあ、とまた悲しくなった。こんなことしてるぐらいなら、早く家に帰って服を着替えてよ、と言いたくなった。

「こんな池にほんとにいるんですか？ ライギョなんて」

「さあ……」

タカギくんはのんきに首をかしげて、「でも、このへんでライギョのいそうな所、ここしかないし」とつづけ、少年を振り向いて、「ライギョがほんとにいたら、すごいだろ」と、まだ釣ってもいないのに自慢げに言った。

「好きなんですか？」

「うん、俺、好き。おまえは？」

「ぼくは……あんまり……」

へビのような体の模様が気持ち悪い。たまにお父さんが獲物をクーラーボックスに入れて持ちかえっても、「料理できない魚は持って帰らないで」とお母さんに嫌がられてしまう。

「知ってる？」タカギくんはリールをゆっくり巻き上げながら言った。「ライギョって池の底でほとんど動かないんだけど、

たまーに暴れると、雷が鳴るんだ」

「そうなの？」

「だから、雷の魚って書いて、ライギョ」

タカギくんはそう言って、「俺、ライギョ大好き」と繰り返した。「ライギョを釣ったら、暴れるだろ、暴れたら雷が鳴るだろ、その瞬間、俺、死にそうなほどうれしい」

カエルのオモチャが水面上がってきた。タカギくんは竿を立ててカエルを手元に引き寄せながら、少年を見ずに言った。

「さっき、石投げただろ」

背筋がぞくつとした。あわてて謝ろうとしたが、Ⅱ出てきた言葉は——なにも練習していなかった。「うそ、そんなことしてない！」だった。

「いいんだよ」タカギくんは笑った。^{※5}「サトウの弟も一緒だったろ。弟とか、弟の友だちに文句言ったら、学校でサトウに殴られるし」

「……でも」

「怒ってないから」

タカギくんは戻ってきたカエルを手のひらに載せて、ほら、と少年に見せた。濡れて色の濃くなった緑色のカエル——「やっぱ、ほんものカエルかルアーのほうがいいよなあ」と笑う。

すぐに手のひらは閉じて、カエルは池に放り込まれる。タカギくんはリール※にストッパーをかけて、「ライギョが釣れたら、雷が鳴るから……」とつぶやいた。

タカギくんの話は隠してお父さんにライギョのことを訊くと、「あそこにはいないだろう」とあっさり首を横に振られてしまった。雷の話も、「逆だよ、逆」——雷が鳴るような天気の良い日に、ライギョは動きが活発になる。水の中に陽の光が射し込まない方がいいのだ。

「お父さん……今度いつライギョ釣りに行く？」

「おう、明日だよ、明日会社の友だちと行くから」

「釣れたら、生きたまま持って帰ってくれる？」

「ライギョはじょうぶな魚だから。水がなくても二、三日は生きてるっていうから、平気だよ」と言ってくれた。

日曜日の夕方、少年はクーラーボックスを自転車の荷台に載せて、ため池に向かった。体長五十センチほどのライギョを一尾、池に入れた。

ライギョは岸边からゆっくりと、のったりと、池の真ん中に向かって泳ぎ出して、すぐに濁った水に紛れて見えなくなった。その日以来、少年はため池には行かなかった。タカギくんがライギョを釣り上げる瞬間を見たい気持ちはあったが、何日た

っても釣れずにいるのを見るほうが嫌だった。

信じた。絶対に釣れる。ライギョを釣ったら、なにかが——自分でもうまく言えないなにかが、変わる。変わってくれるといいな、と祈った。

〈 中略 〉

終業式の次の日曜日は、ため池の水抜きの日だった。お父さんに「連れて行ってやろうか？」と誘われたが、少年は一人でため池に出かけた。

川から水を取る水門は三日前から閉じられ、すでに水かさは深いところでもおとなの膝あたりしかない。残りの水も電動ポンプで見える見るうちに汲み上げられていく。

魚が姿をあらわした。フナがいる。今年もウナギがいた。ナマズをおじさんが捕まえたときには、「今年一番の大物だなあ」の声があがった。

ライギョは——。

胸をどきどきさせて、池を見つめた。

「よし、小学生も入ってもいいぞ」と言われて、裸足で泥の中に入った。もう水は、少年の脛^{すね}までしかない。ライギョがいればすぐにわかる。いてほしくない。

Ⅲ

、タカギくんには、ライギョを釣り上げてほしい。

ライギョは——いない。

用水路につづく出水口にはゴミを濾す網がはまっているので、池の外に出たということはありません。だから、間違いない、ライギョはタカギくんが釣り上げたのだ。

少年は足元の泥を撥ね上げて、泥のなめらかなカンシヨクを足の裏ぜんたいで味わいながら、池の中をぐるぐる歩きまわった。じつとしていられない。誰もいなければ、声をあげてバンザイをしていたかもしれない。

水がすべて退いた。池は泥のプールになった。「はい、じゃあゴミ拾いするぞお」と号令を受けて、底に沈んでいたゴミをみんなですべて拾っていく。

緑色の小さなものが、泥に半分埋まっていた。まさか、と胸をまた高鳴らせながら拾い上げた。

カエルのおもちやだった。

※⁷ 「ボク、ゴミがあるんなら、ここに投げちゃえ」

作業服のおじさんが、大きなポリ袋の口を広げてこつちに向けてくれたが、少年は笑って首を横に振り、泥の表面に染み出た水でカエルを洗った。

あの日のタカギくんのように、手のひらにカエルを載せてみた。表面がまだぬるぬるしたカエルは、おもちやのくせにライギョをだましたお手柄が自分ではよくわかっていないのか、^B 間の抜けたきよんとした顔で少年を見つめていた。

c カンシヨク

ア シヨクムを遂行する

イ 疑惑をフシヨクする

ウ セツシヨク事故を起こす

エ 店内をソウシヨクする

問二 本文中の I II III に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア I きつと

II とつさに

III やつぱり

イ I きつと

II 仮に

III まして

ウ I もちろん

II とつさに

III まして

エ I もちろん

II 仮に

III やつぱり

問三 波線部A「うなだれる」、B「間の抜けた」について、本文中の意味として最も適当なものを、次のア～エからそれぞれ

選び、記号で答えよ。

A 「うなだれる」

ア 疲労感

イ 悲壮感

ウ 劣等感

エ 罪悪感

B 「間の抜けた」

ア きまりが悪い

イ 役に立たない

ウ とぼけている

エ 無気力そう

問四 傍線部①「やつぱりタカギくんはタカギくんなんだなあ、とまた悲しくなった」とあるが、少年が「悲しくなった」理

由として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 同級生や下級生からいじめられても怒らず、石を投げられ池に落ちたあとも、濡れた服のままおもちやのカエルで釣

れるはずもないライギョ釣りをしているタカギくんに対し、心が痛んでいるから。

イ 寒い冬の日に、濡れた服のままでも平気でライギョ釣りをしているタカギくんに対し、どんなときでもなにをやらせ

てもにぶいたカギくんの新しい側面を発見してしまったから。

ウ 同級生や下級生から「タカギ遊び」のターゲットにされても全くへこたれないタカギくんのことを、勘も体の動きも心の反応も本当ににぶい人間だと実感しているから。

エ 冬だから本物のカエルがおらず、その代わりにオモチャのカエルをエサとしてライギョ釣りをしていることを、恥ずかしがる様子もなく笑って話すタカギくんの態度を軽べつしているから。

問五 傍線部②「少年を見ずに言った」とあるが、この時のタカギくんの心情や態度を説明したものととして、最も適当なもの

を次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 普段から行われている「タカギ遊び」に加え、少年とトモノリが投げた石のせいで寒い冬の最中さなかに池へ落とされたことに強い憤りを感じている。

イ 普段から行われている「タカギ遊び」の主犯格であるトモノリと少年に対し、いつか仕返しをしてやろうという復讐ふくしゅう心をむき出しにしている。

ウ 少年とトモノリが投げた石のせいで池に落ちたが、ライギョ釣りに没頭したいので、ため池に戻ってきて話す少年をうっとうしく感じている。

エ 少年とトモノリが投げた石のせいで池に落ちたが、ため池に戻ってきた少年を責めるつもりはないので、平然とした態度を貫こうとしている。

問六 傍線部③「少年は笑って首を横に振り、泥の表面に染み出た水でカエルを洗った」とあるが、少年がそのような行動をとったのはなぜか。その理由を述べた次の文の「X」には「少年の願い」の内容を具体的に二十字以内で、「Y」には「少年の心情」を二字で書け。

「X」という少年の願いを叶えてくれたおもちゃのカエルに対し、「Y」の気持ちがあるから。

問七 本文の内容について最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 少年とタカギくんの会話のやりとりから、タカギくんの優しさと純粋で素朴な性格に少年はだんだんと心を動かされ、しだいに二人の間には友情に近い気持ちが生えている。

イ トモノリからの子分扱いや「タカギ遊び」がなくなってしまうという少年の心情が、タカギくんのライギョ釣りの手助けや釣れることへの成功を祈る気持ちに現れている。

ウ 少年が、ため池でライギョ釣りをしているタカギくんのことを父親に話すと、タカギくんを不憫ふびんに思った父親は、ライギョが釣れたらため池に持ち帰ってきてくれることを少年に約束した。

エ 終業式の次の日曜日、少年とタカギくんはため池の水抜きに参加し、ライギョがないことを確認した後、泥に半分埋まっていたカエルを見つけるとお互いに喜び合った。

※問題は次へ続く

【三】 次の文章を読んで後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧^①に記入せよ。

昔、^{※1}左の大臣いまそかりけり。^{※2}賀茂川のほとりに、^{※3}六条わたりに、家^①をいとおもしろく造りて住み給ひけり。^②神無月の
いらつしやうた。

つごもりがた、菊の花うつろひ盛りなるに、^③もみじのちぐさに見ゆる折、^{※4}親王^{みこ}たちおはしまさせて、夜ひと夜酒飲みし、^④遊び
終わりころ、菊の花が色づいて盛りである上に、
(左大臣が)親王たちをお招きして、 一晩中

て、夜明けもてゆくほどに、この殿のおもしろきをほむる歌よむ。そこにありける翁、^{※5}板敷の下にはひありきて、人にみな

(人々は)この邸宅の

そこにいた老人が、

板敷きの下座をはいまわつて、(他の)人々にみな

よませ果ててよめる。

歌を詠ませてしまつてから詠んだ。

^{※6}塩釜にいつか来にけむ朝なぎに釣りする舟はここに寄らなむ

(歌意) いたいつのまに塩釜に来てしまったのだろうか。朝の穏やかな川の上で釣りをする舟はここに寄つてほしいものだ。

となむよみけるは。^{※7}陸奥の国に行きたりけるに、あやしくおもしろき所々多かりけり。わがみかど六十余国の中に、塩釜とと詠んだのだ。
(翁が陸奥の国に行つたところ、不思議なほど)

いふ所に似たる所なかりけり。

我が(帝の治める)六十余国の中で、

さればなむ、^⑤かの翁さらに「こ」をめでて、塩釜にいつか来にけむとよめりける。
そうであればこそ、こをほめて、「塩釜にいつか来にけむ」と詠んだように思える。

【『新版 伊勢物語』 角川ソフィア文庫 ※問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

- ※1 左の大臣 河原左大臣、源融(みなもとのとおる)
- ※2 賀茂川 京都市の東部を南北に流れ、桂川に注ぐ川
- ※3 六条わたり 京都市六条のあたり
- ※4 ちぐさ さまざまな、の意
- ※5 翁 在原業平のこと

※6 塩釜 現在の宮城県塩釜市、古くから多くの歌によまれる景勝地

※7 陸奥の国 現在の東北地方あたり

問一 傍線部①「おもしろく」の本文中における意味として、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

- ア 楽しい雰囲気で イ 趣向しゆうこうを凝こらして ウ 自らの手で エ 変わった形状で オ 面白半分で

問二 傍線部②「神無月」について次の各問に答えよ。

1 読みを現代仮名遣いのひらがなで答えよ。

2 旧暦何月のことを表すか。漢数字のみで答えよ。

問三 傍線部③「もみじのちぐさに見ゆる折」について、ここではもみじの何を「さまざま」と述べているのか、漢字一字で

答えよ。

問四 傍線部④「遊び」とあるが、当時の貴人たちの遊びとは具体的にどのようなものか。最も適当なものを次のア～オから

選び、記号で答えよ。

ア 詩歌を詠み、管弦を演奏したりしてその優美な調べと時間を味わう遊び。

イ 豪華な食事やお酒を用意し、それを批評し合う遊び。

ウ 男性が集まり、蹴鞠けまりや相撲などの能力を競い合う遊び。

エ 気の置けない仲間が集い、様々な噂や評判を語る遊び。

オ 双六すいろくや碁ごなどを行い、誰が勝つか金品を賭かける遊び。

問五 翁の詠んだ和歌の主旨は何か。それがわかる部分を「く歌」に続く形で、十五字以内で本文中から抜き出して答えよ。

問六 傍線部⑤「かの翁さらにここをめでて」について、「ここ」とはどこを指すか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 帝の住む御所 イ この殿 ウ 塩釜 エ 陸奥の国

問七 この作品は『伊勢物語』の章段である。伊勢物語に関連する次の（い）～（に）に当てはまる語を、後の語群から選び、それぞれ記号で答えよ。

伊勢物語は、竹取物語と同じ（い）時代の前期に成立した最初の歌物語とされている。この物語は在原業平が主人公、あるいは作者だとみられているが、まだ詳細はわかっていない。在原業平は（ろ）の主要な歌人の一人であり、小野小町、大友黒主、僧正遍照らと同じく（は）の一人としても有名である。

本文にある塩釜は、古来塩焼きの名所として知られた場所で、多くの和歌によまれている。このように和歌にしばしばよまれる景勝地のことを（に）とよぶ。左大臣はこの塩釜にあこがれるあまり、自邸の庭に大きな池を堀り、海水を毎日運び入れて塩焼きを楽しんだといわれている。

ア 奈良（時代）	イ 室町（時代）	ウ 平安（時代）	エ 万葉集	オ 古今和歌集	カ 新古今和歌集
キ 歌枕	ク 見立て	ケ 六歌仙	コ 本歌取り	サ 百景	シ 歌聖

※問題は以上